

第1学年 道徳科学習指導案

令和3年10月14日 木曜日 第6校時

四万十市立具同小学校

1年2組 児童数 27名

指導者 亀井 栞里

1. 主題名 よいことと悪いことを区別する 【善悪の判断、自律、自由と責任 A・(1)】

2. ねらいと教材名

(1) ねらい

ごりおくんにいじわるされたばんくんの判断と行動の問題について考えることを通して、よいことと悪いこととの区別をする道徳的判断力を高める。

(2) 教材名

「けいじばんのらくがき」

3. 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本教材は内容項目「善悪の判断、自律、自由と責任」を扱うとともに、情報の伝達に関する情報モラルの観点を取り入れたものである。善悪を正しく判断し、その判断に従って自律的に行動することは、人が主体的に生きる上では欠かせない態度である。自律的な行動には責任が伴うがゆえに、それが本当に正しいことなのか、本当に適切なことなのかということをよく考えて、判断しなければならない。

この時期の児童は、学校生活にも慣れ様々な活動を行っていく中で、褒められることを好んで行動することを通して善悪の判断を学んでいく。しかし一方で、まだまだ幼児期の自己中心性が残っており、自分の欲求を通すために他を攻撃したり、興味関心のままに自分の思いを言葉や行動で表現したり、自分の行為の結果がどうなるかに想像が及ばず、衝動的な行動をとったり児童も多くいる。遊びや学習の中で、相手に嫌な思いをさせることはいけないということは分かっているものの、相手の立場になって考えた行動には繋がりにくい傾向が見られ、自己主張のぶつかり合いや言い争いなども起きてしまいがちである。

この時期に、意地悪をされた主人公がとった判断と行動の問題について教材を通して考え合うことで、自律的な行動には責任が伴うことに気づき、よいこと、悪いことを区別する判断力を養っていきたい。

(2) 児童のこれまでの学習状況や教師の願い

児童は、これまでに「善悪の判断」の内容項目を2時間学習している。「どんないちねんせいになるのかな」では、友達がいけないことをされている6つの場面について考え合う学習であったが、自分がされて嫌なことは友達にはしてはいけないという善悪の判断について考えることができていた。「ぼんたとかんた」では、いけないことへの誘惑に対する判断の教材であったが、「いけないことから」や「あぶないことになるから」などの意見が出され、主人公の決断を動機の面と行動の面から多面的に捉えることができていた。

生活面では、学校生活にも慣れ、友達の係の仕事を進んで手伝ったり、困っている友達に優しくしたりと、親切に声をかけたりできるようになっている児童もいれば、集団生活に慣れていないために、引っ込み思案になったり、物おじしたりする児童もいる。学習の中や全体での行動の際には、よいことを意識して取り組んでいる様子が伺える一方で、一人になったときによいことと悪いことの判断を自分で決断し行動に移すとなると戸惑いが生じ決断できない児童がいる。この時期の子ども達にとって間違いや失敗は誰にでもあることで、その時に自分の言動を振り返り、何がいけなかったのか、次はどうしたらよいか考え判断できる力を育てていきたい。

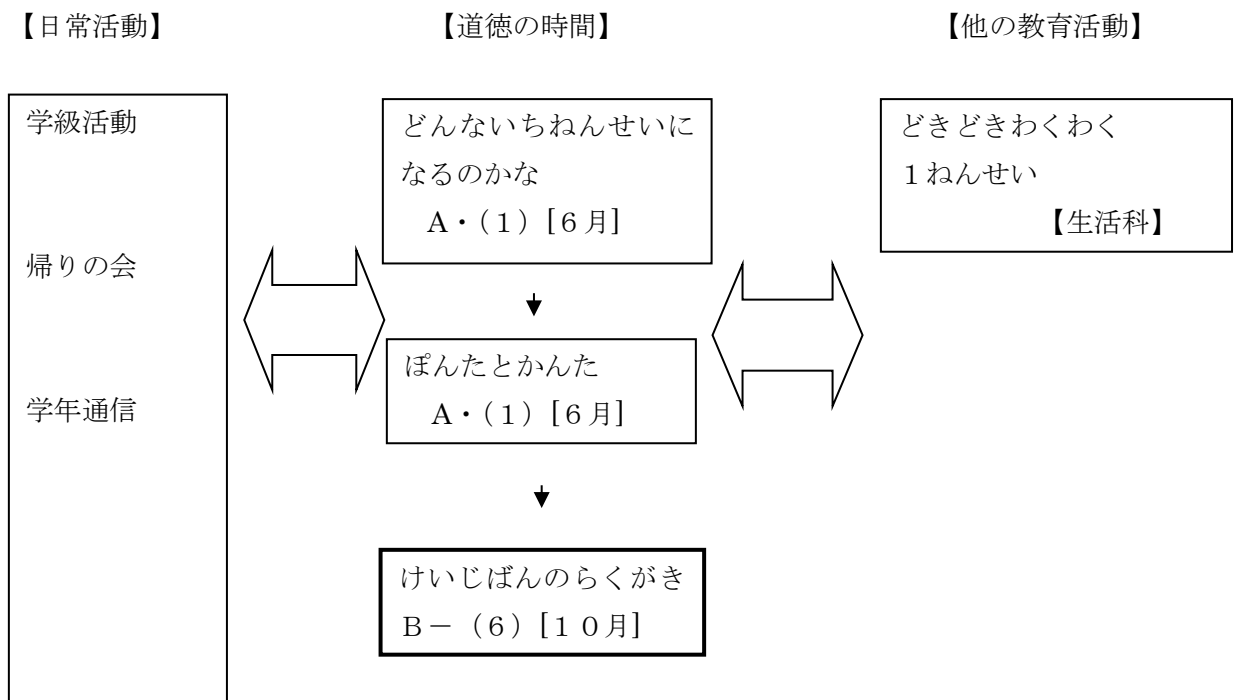
さらに、児童の話から、スマートフォンやタブレット等の情報機器を使って友達と連絡を取ったり、ゲームを通じて友達と繋がったりすることがあることが分かった。本教材ではパソコンやスマートフォンといった情報機器は出てこないが、情報化社会の現在、情報はあつという間に拡散してしまうこと、いじめや嫌がらせに繋がってしまうなど情報の及ぼす影響を理解させることを通して、責任をもって自律的に行動することの大切さに気付かせたい。本教材を通して、自分の行為の結果が相手や周りに及ぼす影響を考えるとともに、取り返しがつかなくなること、いじめに繋がってしまうこともあるなど、よく考えて行動することの大切さに気付かせたい。

(3) 使用する教材の特徴や取り上げた意図及び具体的な活用方法

意地悪なごりおくんをこらしめようと森の掲示板にうその情報を書き込んだばんくん。しかし、それが学校中のみんなに伝わることになり、ごりおくんは笑いものになってしまう。ばんくんの「少しこらしめる」という思いとは裏腹に、大きく事態は悪化してしまうのである。

指導にあたっては、掲示板についての理解を深めさせ、話の流れをおさえる。自分の行為の結果と、その影響の大きさに気付いたばんくんについて共感的に理解しながら、よいこと、悪いことを区別する判断力を養っていきたい。良いと思ったことができた時のすがすがしい気持ちを思い起こさせることを通して、自らよいことと悪いことを判断し、行動しようとする意欲につなげていけたらと考えている。

4. 他の教育活動との関連



5. 学習指導過程

	学習活動	主な発問(○)と 予想される児童の反応(・)	指導上の工夫と支援(◇)
導入	1. 本時の題材を知る。	○掲示板を知っていますか。掲示板には、どんなことが載っていますか。 ・みんなに知らせたいこと。 今日は掲示板が出てくるお話です。	◇題材の意識付けを図る。 ◇掲示板はいろいろな人が見ていることをおさえる。
展開	2. 教材を読む。 ○落書きをするばんくんの心情を考える。 ○落書きの影響を知ったばんくんの気付きを考える。 ○ばんくんの判断と行動について考える。	○ばんくんはどんなことを思いながら落書きをしたのでしょうか。 ・意地悪のお返しだ。 ・ああ、すっきりした。 ○うさちゃんの言葉に「あっ」と思ったばんくんが、きゅうにむねがどきどきしてきたのはなぜでしょう。 ・みんなが掲示板を見たから。 ・みんなが見るとは思わなかったから。 ・うそのことを書いてしまったから。 ◎ばんくんが(どうしよう。早く、けしにいかなきゃ。)と思ったのは、どうしてでしょう。 ・ごりおくんが悪いことをしてしまったから。 ・掲示板は、みんなに知らせたいことを書くところだから、落書きをしてはいけないと気付いたから。 ・うそののに、もっと広がってしまうから。 ○自分だったらどうしますか。 ・掲示板に書かずに、言葉で伝える。 ・いいことか悪いことか考えて行動する。	◇誰にでも起こりうる感情として共感できるようにする。 ◇資料を分割し、場面絵を提示しながら進めることで話の展開への興味関心を高め、ばんくんの心情に迫りやすくする。 ◇ばんくんの気付きを意識化できるようにする。 ◇ワークシートに考えを書かせる。 ◇ばんくんの行動について、自己との関わりにおいて考えさせる。 ◇気付けることの大切さを価値づけられるようにする。 ◇情報モラル、いじめにつながることに触れる。
終末	3. 感想を伝え合う。	○ばんくんに言ってあげたいことを書きましょう。 ・掲示板はみんなのものだから、落書きはいけないよ。 ・いいことか悪いことか考えて行動しないとだめだよ。	◇ばんくんへの手紙でもいいことを伝える。

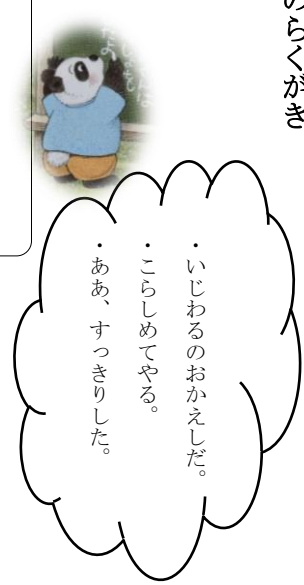
6. 評価の視点 (評価方法)

ばんくんの判断について、様々な視点(後悔、反省、責任の自覚など)で考えている発言が見られる。

ばんくんの気付きについて、よいことと悪いことをよく考えて行動することの大切さを、自己との関

7. 板書計画

だい かい けいじばんのらくがき



おねしょなんかしていないよ。



けいじばんにかいてあったよ。

どきどきしてきた

- ・みんながけいじばんを見たんだ。
- ・みんなが見るなんておもわなかった。
- ・うそのことをかいてしまった。

(どうしよう。早く、けしにいかなきゃ。)

- ・ごりおくんにわるいことをしてしまったから。
- ・いけないことだと分かったから。
- ・うそなのに、もっと広がってしまうから。

ばんくんへ・・・

- ・けいじばんにかかずに、ことばでつたえるといいよ。
- ・よくかんがえてこうどうしてね。
- ・いいことか、わるいことかかんがえてこうどうするといいよ。